詩に関する問題

年　組　番　氏名

一　金子みすゞの『ふしぎ』を読んで、あとの問いに答えなさい。

ふしぎ

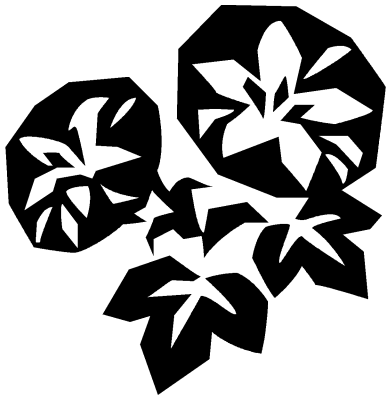
金子　みすゞ

わたしはふしぎでたまらない、
黒い雲からふる雨が、
銀にひかっていることが。

わたしはふしぎでたまらない、
青いくわの葉食べている、
かいこが白くなることが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれもいじらぬ夕顔が、
ひとりでぱらりと開くのが。

わたしはふしぎでたまらない、
たれにきいてもわらってて、
あたりまえだ、ということが。



問一　作者は、四つのまとまりの中で、どんなことを「ふしぎ」だと言っていますか。表に書き出しなさい。

一連	例　黒い雲からふる雨が、銀にひかっていること。
二連	
三連	
四連	

問二　この詩のなかで、「ふしぎ」とは反対の意味として使われている言葉をぬき出し、五文字で書きなさい。

問三　この詩の表現の仕方の特徴的なところを、できるだけわかりやすく、簡潔に書きなさい。

（解答例）

問一　二連　青いくわの葉を食べているかいこが、白くなること。
　　三連　だれもいじらない夕顔が、ひとりでぱらりと開くこと。
　　四連　だれに聞いても笑っていて、あたりまえだと言うこと。

問二　あたりまえ

問三　七・五音で、同じ音の数の繰り返しになっている。
　　倒置法を使っている。
　　全ての連が、～が。で終わっている。
　　どの連も、「わたしはふしぎでたまらない、」で始まっている。
　　どの連も三行で書かれている。